

国語 第4学年 調べて確かめたことを話そう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：学級の生活で知りたいことを調べ、集めた事実を比べたり分けたりして、相手に知らせる中心を選ぶ。結果を全て読み上げず、中心が聞き取れるように強弱や間を工夫する。A(1)ア・A(1)ウの学習として、生活調査の報告メモ。調査の問い、方法、結果、知らせたい中心、中心を示す資料、聞き手への伝え方を記す。数値は自分で集めた結果だけを使う。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、調査で集めた材料を比較・分類して知らせる事柄を選び、中心が伝わるよう話し方を工夫しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。A(1)ア・A(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：生活調査の報告メモを残す。調査の問い、方法、結果、知らせたい中心、中心を示す資料、聞き手への伝え方を記す。数値は自分で集めた結果だけを使う。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、A(1)ア・A(1)ウに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：予想を調査結果として話す。学級での結果を全ての子どもの傾向と言う。数値の読み上げだけになる。これについて、調べた相手・方法・問いを記録し、結果と感想を別の欄に書く。集計前に分類の基準をそろえる。私生活や家庭の経済状況など答えにくい調査は避け、回答しない選択を用意する。〔知識及び技能〕(1)イとA(1)ア・A(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「調べた結果の中で、いちばん知らせたいことは何ですか。比べたどの結果を示すと、その中心が伝わりますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、A(1)ア・A(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：生活調査の報告メモは紙に記録できる。調査の問い、方法、結果、知らせたい中心、中心を示す資料、聞き手への伝え方を記す。数値は自分で集めた結果だけを使う。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をA(1)ア・A(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。A(1)ア・A(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：調査の統計的な精度まで評価するのか。

返し：A(1)ア・ウの範囲で、比較・分類して選んだ内容と伝え方を見る。調査対象の範囲を明示し、得ていない結果を言わないことは、国語の説明の正確さとして扱う。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「調べた結果の中で、いちばん知らせたいことは何ですか。比べたどの結果を示すと、その中心が伝わりますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。A(1)ア・A(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

